第３期熊谷市子ども・子育て支援事業計画（案）に対する意見と市の考え方

１　意見募集期間
令和６年１２月２０日（金）から令和７年１月２０日（月）まで

２　意見の提出者数及び意見等件数
提出者数６人　　意見等件数 14 件

３　意見の内容と市の考え方

【意見番号】 該当箇所	意見の内容	市の考え方
【１】 全体を通して	第二期熊谷市子ども子育て支援事業計画の評価はどこに載っているのですか。 事業内容がほとんど継続だが第二期でどのくらいできて、できなかったのは何が原因か評価する必要があると思うから。	第二期熊谷市子ども子育て支援事業計画の評価は、資料編に記載します。
【２】 P25～P27 理念や目標について	詳細かつ丁寧に情報を集め分析していて、必要な支援についてしっかり認識していると感じました。 しかし、こども関連の事業を計画する際に、もう一つ大切な視点があると考えます。それが、こども達が生きるこれからの時代がどのような時代で、そんな時代を豊かに生きるために、どんなスキルが必要なのかという視点です。残念ながら、本案の理念目標の中に、そのような視点を読み取ることはできませんでした。 私の見解ですが、これからの時代は、VUCA といわれ、そのような時代を豊かに生きるには、主体性がなによりも大切だと言われています。主体性が育つ環境を整えることこそが、熊谷市の役割であり、主体性が育つ環境において、主体性を引き出す取り組みを行うことが熊谷市教育委員会及び市立学校、こどもに関する公共機関の役割であると考えます。 本計画案に限らず、他の施策にもできる限り、主体性を引き出す視点を加えることで、特にこどもや子 育て世代のような若い市民の主体的な政治参画を促す効果も期待できます。呼びかけや啓発イベント開催など直接的なアプローチには限界があります。少しづつ、しかし幅広く、こどもや市民の主体性を引き出す取り組みによって、サービスを受けるのではなく、自分たちでつくりあげたサービスを受けるという意識がうまれ、市役所職員だけでは手が回らない部分にまで、工夫改善が及ぶのではないでしょうか。そのような意味でも、理念や目標に、「これからの時代は VUCA の時代で、そんな時代を豊かに生きるには、主体性が大切ですよ」というような要素があってもよいのではないかと思います。そのことが、結果的に子どもや子育て世代の本当に有効な支援となっていくものと考えます。	こどもの主体性や考える力を育む取り組みについては、基本目標３「次代を見据えた教育環境の整備」の（３）「地域の教育力の向上」に関する事項で記載をしています。 関連事業の実施に当たっては、日々変化する社会情勢に対応した事業内容になるよう検討していきます。
【３】 P26 第３章 2　計画の視点	教育従事者の視点も入れるべきではないか 事業内容にはたくさんのことが盛り込まれているが、今いる人員でできるのか疑問だ。 時間と心にゆとりがなければ子どもたちのケアはできないと思う。 親の働き方改革を市が行うことはできないが、教育従事者の働き方改革は市が率先して行うべきことだと思う。 人員確保は全ての項目に当てはまることだと思うので計画に入れてほしい。	本計画は、教育関連事業が多数ありますので、「熊谷市教育振興基本計画」を踏まえ、計画策定をしています。教育従事者の視点については、上記計画に反映されているものと考えています。

【意見番号】 該当箇所	意見の内容	市の考え方
【４】 P60 第３章 4 施策の体系 ⑷ 思春期保健対策の充実	思春期保健対策の欄に、性教育に関する内容を含めてほしいです。 性教育は幼少期から段階的に行うことで自分を大切にする能力を身につけ、被害の回避や、加害者にならないようにするといった、その後の人生に関わる重要な内容だと思います。また予期せぬ妊娠、中絶は身体的、精神的な負担が大きいものです。 プライベートパーツや、No means no の考え方などを早期から子どもたちに伝えてほしいです。	思春期保健対策②「地域保健と学校の連携による健康教育の実施」の欄に性教育の指導に関する内容の記載があります。幼少期から様々な授業や場面をとおして、性教育について学習を進めております。性に関する指導の更なる充実に向けて、市内養護教諭部会にて性教育の授業における授業展開例等について準備を進めているところです。 また、男女共同参画室で生徒児童及び保護者を対象とした性の尊重や心身の健康についての理解促進に関する講座を実施していますので、事業として追記しました。
【５】 P61 第５章 基本目標３　⑴ 事業 No.80 小学校・中学校の教育内容の充実	事業内容を次のように修正されることを提案します。 「各校における児童生徒一人ひとりの実態を丁寧に把握し、それぞれのペースに応じた主体的な学びや成長を支援します。授業の工夫・改善を通じて、知識の習得だけでなく、主体性や社会の当事者意識を育む教育を推進し、子どもたちが自分らしく未来を切り拓く生きる力を身につけられるよう取り組みます。」 学習指導要領に示されている「生きる力」の育成は、学力だけでなく、一人一人の主体性と社会の当事者意識を育むことを求めていると考えます。しかし現在の本市では、「一人一人」ではなく「全体平均値」が全国トップレベルの数値結果であり続けることに主眼をおいていないでしょうか。このことは令和６年度熊谷市教育委員会の事務に関する点検・評価報告書からも読み取れます。またこの日本一主義が、成長のペースが異なる子どもに不必要な劣等感を与えたり、教員にも平均点アップの過度な重圧を課すなど弊害を生じていることは問題と捉えています。 そこでまず、「小中学校の教育内容の充実」を改めて定義することが有用と考えましたので修正文を提案しました。 この修正文により、すべての子どもが自分らしく学び、未来を切り拓く生きる力を育む教育方針が明確になると考えます。	熊谷市では、テスト等の一般的な学力検査によって測定できる、いわゆる「知力」だけを学力と捉えていません。思いやりの心などの「徳力」や、走る力、投げる力などの「体力」も広い意味での学力と捉え、知・徳・体のバランスのとれた学力を身に付けさせることにより、子どもたちの「生きる力」、未来の社会を「生きぬく力」を育成します。
【６】 P63 第５章 基本目標３　⑴ 事業 No.96 青少年健全育成活動の支援	「青少年健全育成活動の支援」について 、「こどもが豊かな人間性を育み、健やかに成長するよう、地域で活動している各種団体を支援しています。 」と記載があるが、こども会の活動についても触れていただきたい。 熊子連では球技大会や絵画展・かるた大会などを通じてこどもたちの育成支援を行っているため。また、 ジュニアリーダーの育成など指導者の育成促進に関する活動も実施しているため。	資料編の用語の説明に記載します。

【意見番号】 該当箇所	意見の内容	市の考え方
【７】 P64 第５章 基本目標３　⑵ 事業 No.98 熊谷のこどもたちは、これができます！ 『４つの実践』と『３減運動』事業	子どもたちの多様な特性や主体性を尊重する内容に見直すことを提案します。以下のように改訂することで、押し付けではなく、子ども自身が主体的に選択し、より充実した生活を送るための指針となることを期待します。 【名称の修正案】 生きる力を育む７つの提案 【内容の修正案】 朝ごはんをしっかり食べる → 朝のエネルギー補給を工夫しよう 呼ばれたら「はい」と元気よく返事をする → その時々の自分に合った返事の仕方を考えよう 「ありがとう」「ごめんなさい」と言う → 気持ちを伝えて解決策を話し合おう 友だちをたくさんつくる → 人とのつながりを大切にしよう テレビの時間を減らします ゲームの時間を減らします → テレビやゲームと上手につきあおう スマホ、携帯電話やパソコンに触れる時間を減らします → デジタル機器を賢く使おう 現行の「４つの実践」と「３減運動」は、すべての子どもに同じ基準を求めることで、個々の特性や状況を十分に考慮していない点が懸念されます。例えば、「朝ごはんをしっかり食べる」という表現は、朝食を取ることが難しい子どもにプレッシャーを与える可能性があります。これを「朝のエネルギー補給を工夫しよう」に改めることで、各家庭や子どもが主体的に取り組む提案に変化でき、意図は伝わりながらプレッシャーはなくなると思います。また、「３減運動」においては、単に時間を減らすことを求めるのではなく、バランスの取れた活用法を学ぶことが重要だと思います。「ゲームと上手につきあおう」などの表現に改めることで、子どもが主体的にデジタル機器との関わり方を考えるきっかけを提供できるのではないでしょうか。これらの改訂により、生きる力を育む上で重要な子どもたちの主体性に資する取り組みにバージョンアップ出来るものと考えます。	全ての小中学校において、個々の特性や状況を考慮し、主体性を尊重した教育を行っていますが、「熊谷の子どもたちは、これができます！『４つの実践』と『３減運動』」の内容は、子どもたちにも分かりやすい表現にしたものです。 これは、学校・家庭・地域が連携し、大人が手本となって取り組むことが大切です。ご協力をお願いします。
【８】 P64 第５章 基本目標３　⑵ 事業 No.98 熊谷のこどもたちは、これができます！ 『４つの実践』と『３減運動』事業	パソコンの利用を減らす、という項目は、逆に子どもの可能性を奪う可能性もあり、全員守るべき指針としての制定は見直した方 がよいのではないでしょうか。 スマートフォン、携帯やパソコンに触れる時間を減らすとのことですが、プログラミングの授業が必修化し、IT 人材が求められる中で、早期からパソコンに触れることでプログラミングスキルを磨くなど多様なスキルアップの機会になる可能性があるかと思います。また AI と将棋対戦など、利用のメリットもあると思います。 熊谷市の IT 人材の増加や DX 推進を考える際に、幼少期に一律でパソコンの時間を減らすという教育は検討の余地があると感じました。(私自身は、小学生時代にワープロでタイピングや HTML を覚え、それが今の仕事につながっています) ただ、スマートフォンによる SNS 依存やいじめ、ルッキズムの内面化や視力低下、個人情報流出、アダルト広告、無断の課金などの問題はあり、通信機器の使用については親子ともリスクや利用について理解を深め、適正利用につながるとよいと感じました。	「スマートフォン・携帯電話やパソコンに触れる時間を減らします」は、メディアの適正利用によって、家族との会話の時間を増やし、家庭での学習の時間を増やしましょうという、呼びかけを、子どもたちにも分かりやすい表現にしたものです。 これは、学校・家庭・地域が連携し、大人が手本となって取り組むことが大切です。ご協力をお願いします。
【９】 P64 第５章 基本目標３　⑵ 事業 No.98 熊谷のこどもたちは、これができます！ 『４つの実践』と『３減運動』事業	「友だちをたくさん作る」は、子どもたちの多様な考えを尊重した内容にした方がよいのではと感じました。 「友だちをたくさん作る」という考え方は、狭い学校生活の中で気が合う友だちが見つけられない子や、友だちがあまり欲しくない、1人で楽しむことが好きな子を否定してしまうのではと感じます。もちろん、社会性を身につけることは重要ですが、友だちがたくさんいる方が優れている、という考え方になると、学校内のカーストができたり、多数派に流されてしまったり、孤立を恐れて自由な発言を控えるなどの考えにつながってしまうのではと思います。 塩梅が難しいですが、それぞれの子どもの思いを尊重した内容にしてほしいと思いました。	全ての小中学校で様々な考え方、意見の子どもたちの声を見逃すことなく、多様性を尊重していますが、「友だちをたくさん作る」は、学校でたくさんの人と関わり合う中で、多様な価値観に触れ、健全に成長して欲しいとの願いを込めたものです。 また、子どもたちにも分かりやすい表現にしたものです。 これは、学校・家庭・地域が連携し、大人が手本となって取り組むことが大切です。ご協力をお願いします。

【意見番号】 該当箇所	意見の内容	市の考え方
【10】 P65 第５章 基本目標３　⑶ 事業No.99 放課後子供教室の推進	心豊かでたくましいこどもたちと特定しないでほしい。 人間はそれぞれ個性を持っているのだから全員がたくましい人でなくても良いのではないでしょうか	「自分の考えをもって積極的に取り組むこどもたち」「目標や課題解決に向かって、粘り強くやり遂げようとするこどもたち」を育むという意味を込めて、たくましいこどもたちとしています。
【11】 P68 第５章 基本目標４　⑴ ①　仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の実現のための意識や働き方の見直し	ワークライフバランスの改善について、事業者へアプローチする内容を明記してほしいです。 市が主催でセミナーを開催しても、関心がある人しか来ないと思います。 事業者・経営者に対して、ワークライフバランスの改善を促すようにしてほしいです。 まだまだできていない会社が多いと思います。中小企業が多く、労働組合を作るハードルも高いなどの課題がありますので、行政から積極的に働きかけてほしいです。例えば「こういう制度はありますか？」「残業はどれくらいですか？」とアンケートを用意し、それをHPで会社名と合わせて公表する、くらいのことをするとなれば、重い腰が上がると思います。 また企業へのアプローチは男性へのアプローチでもあります。離婚率の高さはワークライフバランスも影響していると思います。男女共同参画の一環として、男性の育児参加を促す仕組みづくりをお願いします。	仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の推進に当たっては、「御用聞き便」による市内企業への広報物の配布のほか、男女共同参画に関する講座の開催や啓発資料の配布などを行い、事業所に対し働きやすい職場環境づくりの整備が進むよう働きかけています。 また、ワーク・ライフ・バランスの推進に積極的に取り組む事業所に対し表彰を行い、市報やホームページ等に掲載することで意識向上に努めています。 なお、上記内容は「くまがや男女共同参画推進プラン改訂版」に明記しています。
【12】 P79 第５章 基本目標５　⑶ 事業No.200 相談支援体制の充実	高次脳機能障害を有する障害児への相談支援体制を整備していくことを施策として位置づけてください。 令和６年度障害福祉サービス等報酬改定で高次脳機能障害支援体制加算（障害児童支援）が新設されたことを受けて。	高次脳機能障害や強度行動障害などの障害特性に応じた相談支援体制の整備について、事業内容に反映します。

【意見番号】 該当箇所	意見の内容	市の考え方
【13】 人材確保策及び、質の確保について	本計画案では、前提をしっかり踏まえ、必要かつ有益な取組をいくつも示してくださっています。 しかしながら、２点ほど、心配に堪えない部分がありますので、指摘させていただきます。 １つ目は、人材の確保についてです。現在、多くの企業や事業所で人材不足が課題となっています。特に保育や教育に関わる人材の不足は社会問題化しており、熊谷市においても黙っていても人がくる状況ではないと推察します。このような状況で、どのように人材を確保するのか想定しているのでしょうか。計画の着実な実施のためにも、人材確保策を明記するべきだと考えます。 ２つ目は、人材が集まったとしても、質の確保をどのように担保するのか。質は、子どもの健やかな成長に直結する大きな要素です。数はそろっても、実質的に支援となっているかいないかが重要です。絵に描いた餅にならないよう、質の確保の手だてについても明記していただきたいと思います。 本計画案を実現するには、「くまっこルーム」の拡充、新くまなびスクール等の新規事業をはじめ、継続事業においても、「推進する」や「（拡大に）努める」、「（積極的に）活用を図る」、「充実する」等の文言が目立ち、多くの人材が必要だと想像します。本計画案は、必要なニーズを満たした素晴らしい計画案ですが、実際に行う人材がいなくては絵に描いた餅です。 人材の確保後に問題が質の確保です。多様なこどもに対応できる幅広い人材を集めるのが理想ですが、現実的に難しいことを踏まえると、現場のスキルを最大限発揮できるよう風通しのよい、開かれた施設・園・学校とすることが重要だと考えます。昨年の市立保育所の問題等の不適切な指導や不法行為等の対策にもなるものと考えます。さらに、計画通りに数がうまらない場合も十分考えられますので、その場合にどうするか等についても現実的な対応を記載していただきたいです。	本計画は、市職員のみでなく地域や社会全体で子育て支援することを目指しており、事業者に対しても柔軟な就労環境の整備が必要であることを発信、啓発、支援していくことが、広い意味での人材確保につながると考えています。 ご指摘いただいた、保育・教育の人材については、処遇の改善や、休暇を取得しやすい環境づくりや時間外勤務の削減などに努めるとともに、職員給与に関連する公定価格についても、人材の流出に繋がらないよう、引き続き国へ要望を続けていきます。 質の確保については、関係機関との連携を強化することで、専門的な意見や多角的な視点＝質の確保ができると考えています。保育・教育分野についても様々な研修等を通じて質の向上を図りながら、量の見込みについても、実績値が計画と乖離している場合には、計画の見直しを検討していきます。
【14】 周知や情報発信の仕方について	本計画案に示されている支援の多くは、プル型の支援と推察しますが、それには、どのように必要な市民に情報を届けるかが重要だと考えます。しかし、残念ながら市民の皆さんが、市が発信した情報を確実に受け取ったということが明確にわかる方法は存在しません。そこで、発想を変えて「市民にその役割を担ってもらう」というのはどうでしょうか？ しかし、この方法には問題点が２つあります。１つ目は「お願い」や「呼びかけ」では市民は動かないということ。２つ目は、「支援の質が低いと市民は動かない」ということです。この２つを踏まえると、甘い言葉や情報の連呼ではなく、本質的に良質な支援を提供することが、市民に情報を伝える有効な手立てとなると考えます。また、こどもの問題では、本当に支援が必要な市民 に限って届かないということがよくあります。その背景には、孤立や貧困、情報弱者等があると言われています。その対策も必要と考えます。 情報発信については、より多くの市民に届ける手立てと本当に必要な市民に届ける手立ての両輪で行うべきと考えます。 多くの市民に届けるのが「市民による情報発信」、必要な市民に届ける手立てが「戸別訪問、園・学校との連携等」の更なる充実です。同時進行で強力な発信力を生むと考えます。 1/20 夕方、熊谷市の利根川に生後５カ月の赤ちゃんを遺棄した女性が逮捕されたと報道されました。熊谷市及び熊谷市教育委員会におかれましては、この女性にこそ届く行政をしていただきたいと要望します。 また、不登校の問題が社会問題化していますが、数年前の市議会で、担当者が熊谷市の不登校児童生徒数は埼玉県の平均を下回っている旨の答弁をしていたと記憶しています。不登校当事者やその家族は、平均として見られていること、平均より低いから大丈夫という感覚に疑問を持っています。質の高い支援とはどのようなものなのか。議論したいと思います。	全てのこども・子育て世帯の多様な支援ニーズに対応するためには、プッシュ型支援とアウトリーチ型支援を状況に応じて実施することが必要であると考えています。